

いのちの水霞ヶ浦を放射能から守ろう！

市民によるモニタリング第二回報告会

水道水源・霞ヶ浦にせまる放射能汚染！

霞ヶ浦はかつて無い危機に直面しています。霞ヶ浦には56本の流入河川があります。福島原発の爆発によって大気中に放出された放射性物質は、霞ヶ浦流域に降り注ぎ、その後雨水などによって徐々に流入河川に集まり、現在は霞ヶ浦に向かって移動しつつあります。このまま放置すれば、大量の放射性物質が霞ヶ浦に流れ込むことになります。

ところが、このような危機的状況にも関わらず国（環境省）は56本の流入河川の中の12本でしか調査を行わず（今年2月）、一河川あたり1ヶ所のデータしか集めていません。このような粗い調査では、霞ヶ浦への影響や将来の汚染の予測もできません。茨城県は、国任せでまったく動こうとはしません。

このような状況に危機感を持った市民が立ち上がり、全流入河川56本の実態調査を行う市民モニタリングを3月8日から実施しています。現在、行政等からの支援はなく市民からの寄付や参加によって実施されています。NPO法人アサザ基金と常総生協や霞ヶ浦生態研究所、茨城農民連等の協働によって進められています。すでに、56本の流入河川でのサンプリングは完了し、順次放射能の測定を行っているところです。また、調査で極めて高い汚染値（備前川で9550 bq/kg）が確認された流入河川については、1河川あたり10数カ所のポイントでサンプリングを行いより詳細な調査を実施しています。

これらの調査の結果、霞ヶ浦に迫る放射能汚染の実態が少しずつ明らかになってきました。同時に、霞ヶ浦を放射能汚染から守るために必要な対策も見えてきました。

今回の報告会では、前回4月1日の報告会では報告をできなかった他の河川や汚染の進んでいる河川での詳細な調査の結果を報告すると共に、浜田篤信氏（元県内水面試験場長）から現状の分析と対策の実施に向けた提言を行います。

霞ヶ浦の放射能汚染を食い止めるために！

市民モニタリングによって明らかになってきたデータを基に、各流入河川の特性を踏まえたきめ細かな対策を実施することで、霞ヶ浦への放射性物質の流入を最小限に食い止めることは可能です。縦割りの壁を越えて多くの人々の知恵や技術を集めることで、今は困難と思われている事態も克服することができるはずです。

未来の人々に大きな負債を残さないためにも、今わたしたちには英知と行動力が求められています。わたしたち市民からネットワークを広げ、行政や研究機関などの多様な主体との協働を実現させていきましょう。みなさんご協力ください。

霞ヶ浦を守るために、ひとりひとりの行動が必要です！私たちの暮らしに直結する問題です。ぜひ、ご参加ください！

日時 : 6月3日 14:00~16:00

場所 : 霞ヶ浦環境科学センター 多目的ホール

主催 : いのちの水・霞ヶ浦を守る市民ネットワーク

連絡先 : 坂本 繁雄 090-3094-7326

: アサザ基金事務局 029-871-7166

呼びかけ団体 霞ヶ浦の再生を考える会 常総生協 茨城農民連 NPO 法人アサザ基金
金・・・・・・・・・・・・・・・・+新しい団体